

3. 特筆すべき活動 ((1)・(2) でA4用紙1枚)

(1) 全学の教育研究に関する組織改編等への取組と協力、特色ある教育GP等の採択状況と取組、21世紀COE等の採択状況など。

- ・ 21世紀COEプログラム「流動ダイナミクス国際研究教育拠点」が採択され、中間評価でA評価を得て、平成18年度は直接経費178,000千円、間接経費17,800千円が交付された。
- ・ 文部科学省中核的拠点形成プログラム「複雑媒体中の衝撃波現象の解明とその学際応用」が国際的評価を得た。この拠点活動が国際研究連携に発展し、国際衝撃波学会の創設へと繋がっている。
- ・ 平成17年度は全学科目2科目、基礎ゼミ2科目担当し、全学教育に協力している。
- ・ 学部・大学院の入試作題委員として教員を派遣している。
- ・ 本学のリエゾンオフィス全11件のうちの5件は流体研が世話部局となっており、本学の国際協力に貢献している。また全学の学術交流協定の18件は流体研が世話部局となっている。
- ・ 流体科学の世界的拠点として年に3回の国際会議(高度流体情報国際シンポジウム, 融合流体情報国際シンポジウム, 流動に関する国際シンポジウム)を行うほか、ノーベル賞受賞者を招待講演に招聘するなど、国際交流に貢献している。
- ・ 流体研独自の国際教育制度として、「国際宇宙大学」へ平成2年度から17年間連続して大学院学生を派遣し、国際性豊かな若手研究者の育成に貢献している。
- ・ 流体研は国内外で高く評価されている。一例として、民間による国内研究教育機関の学術分野別ランキングを表す資料では、流体工学の分野で1位(世界ランク5位以内)、流体物理学の分野で3位、熱工学の分野で8位にランクされている。また、科研費からみる全国大学総合ランキングにおいて、機械工学の分野で東北大学が3位にランクされていることに大きく貢献している。
- ・ 現在までに、産総研と8件、JAXAと7件を含む17件の部局間共同研究を行っている。

(2) その他、特筆すべき研究・教育・診療・社会貢献等への取組と成果、世界的位置付け(ISCitationなど)など。

- ・ 平成17年度から、みやぎ県民大学大学開放講座を実施し、流体科学に関する啓蒙を一般市民に対して行っている。
- ・ 隔年で「片平まつり」を開催し、流体科学に関する啓蒙を一般市民に対して行っている。
- ・ 仙台市科学館で毎年開催される「科学講演会」において、流体科学に関する啓蒙を一般市民に対して行っている。なお、この企画は12年間継続中である。
- ・ 現在まで2つの寄附部門を設置し、また民間から特任教授、客員教授を採用するなど産学連携の強化に努めている。
- ・ 環境技術で社会貢献することを主な目的として、平成17年7月に創設されたNPO(環境親和学研究所)の活動に貢献している。
- ・ 出前授業等で、小中高へ出向いての授業を積極的に行っている。
- ・ 東北大学100周年記念セミナーに積極的に参加し、全学の社会貢献に貢献している。さらに、19年2月に開催の東北大学主催の日仏セミナーでも主要な役割を担う予定である。
- ・ 18年8月に日韓進学校高校生の国際交流と最先端科学技術の研修を実施した。
- ・ 研究所の教員が所属する工学分野で東北大学はISIの引用が世界38位、国内2位であり、本研究所も貢献している。